

団体名	THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊
事業名	多文化表現プロジェクト ～違っていても面白い、おはなしを語る、動く、歌う、踊る～

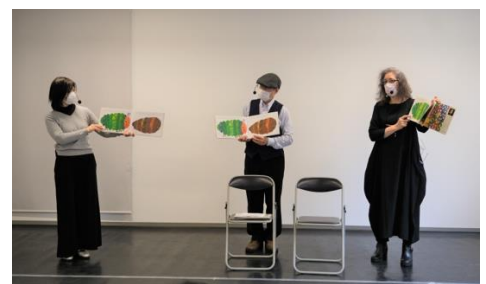
<p><b>目的・背景</b></p> <p>・私たちは、障がいのある方や外国につながる方が地域から孤立しがちな実態を見てきた。この事業の目的は、多文化表現を広く知ってもらうことと、その表現活動を通じて、上記のような方達が一般市民の方達と出会って、協力しあうことで互いの理解を得ることである。気軽に参加できる表現活動のワークショップや鑑賞会、フェスタなどの機会を作り、当事者同士と一般市民との出会い、協力の場を提供する。</p> <p>・さらにそれら鑑賞会やフェスタへの参加者同士の交流と協力により、多文化共生がさらに進むと考える。</p> <p>・このような事業を草の根的に地道に進めていくことで、全国に先駆けて、多文化共生の推進に力を入れている川崎市がさらに住みやすい地域になる。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>・多文化表現フェスタでは一般参加者からのアンケートで</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 視野がひろがった</li> <li>- いろいろな国の料理も知りたい</li> <li>- いろいろな人が暮らしていることがわかった</li> </ul> <p>などの感想をいただき、一定の効果が見られた。また、お手伝いでも入ってくださった方々、講師、一般来場者の間での交流や情報交換もでき、充実した交流の場となった。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>・一般参加者を迎えての活動は、「多文化表現フェスタ」だけとなってしまったが、その中で交流、理解、協力し合うことができた。</p> <p>・コロナ禍でワークショップへの参加者を増やしたり、鑑賞会への入場者を迎えること、集客に力を入れることのできない状況での活動であったが、当団体の活動への理解者や入会するメンバーは増えた。</p> <p>・活動の様子は、動画、写真として保存し、参加できなかったメンバーや関係者に後日見てもらおうことができるようにした。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>・今年度は、コロナ禍の影響が大きく、人の交流が大幅に妨げられたことや毎年恒例の大きなイベントもすべてキャンセルされたため、本事業のための告知や周知が困難であった。</p> <p>・次年度は、引き続き感染対策をしつつ、今年度のワークショップを踏まえ、障がいのある人、外国につながる人たちと一般市民の方達をつなぐ場としてのフェスタの形を考慮しながら、ワークショップを企画していく。</p> <p>・ワークショップは、現在想定している講師を含め、多様な文化が体験できるような講師や機会をさらに増やすように努力していく。</p> <p>・コロナの状況にもよるが、オンラインを利用したの打ち合わせやワークショップも考えていく。</p>



2020/11/8 パントマイムのワークショップ



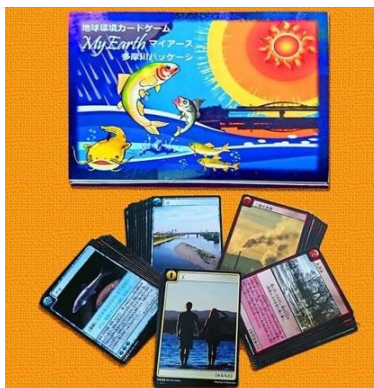
2020/11/15 溝ノ口劇場



2021/3/7 多文化表現フェスタ

団体名	NPO 法人 SoELa
事業名	川崎の生態系カードゲームによる子供向け環境ワークショップの開催

<p><b>目的・背景</b></p> <p>地球環境問題は、SDGs でもゴールに設定されている人類が抱える喫緊の課題でもあり、国内でも台風の大型化による水害など身近な課題でもあるにも関わらず、自分ごとにしにくい側面を持っています（家庭からの二酸化炭素排出は抑制されていません。全国地球温暖化防止活動推進センター調べ）。そこで身近生態系をテーマとしたマイアース多摩川パッケージを制作、体験会、ワークショップを開催することで、将来自ら行動を起こし環境問題を解決していこうとする若者で溢れる世の中になることに寄与します。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>イベントの中止により肝心の子どもが環境問題にいかに関心を抱くかという効果がほとんど知ることが出来ませんでした。</p> <p>数少なかった子どものマイアース体験による感想です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩川の水を飲みたいと思った(小学6年生女子)</li> <li>・温暖化の水枯れのカードが怖かった(小学6年生女子)</li> </ul> <p>しかしながら、マイアースの展開については多摩川パッケージを契機に神奈川県各地に拡大しました。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>多摩川パッケージについては、川崎市、神奈川県内水面試験場、カワスイ、桜美林大学藤倉教授の協力で、大学生、高校生 5 名が制作を担当し、200セット制作しました。</p> <p>多摩川パッケージを活用した予定されていたワークショップ、体験会は全て中止となってしまいました。</p> <p>すくらむ 21 まつり王禅寺中央中学校文化祭、川崎市水辺の楽校イベント、カワスイ体験会など。</p> <p>イベントに代わり、川崎市よりインターネットにてマイアースイベントを配信することとなり、収録時に子どもたちに体験してもらいました。</p> <p>また、箱根にある函嶺白百合学園にてマイアースワークショップを行い、多摩川パッケージも活用しました。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今回の多摩川パッケージの制作を通じ、マイアースの地域版制作の延長線上のビジネス化について、かわさき起業家オーディションに参加。ファイナリストとなったことで、様々な繋がりができ、4月から箱根の生態系パッケージ、夏以降相模湾の生態系パッケージの制作が決まりました。今回の助成による波及効果が拡大した。また、4月以降カワスイ、小田原、箱根においてワークショップが決定するなど確実に拡大することにより、来期は本来の子ども向け啓発事業が拡大していくと確信しています。</p> <p>ファシリテータや製作者が学生であるため入れ替わりがあること、今後全国展開していくにあたり遠方でのプロジェクトなどの学生ファシリテータの確保が課題です。</p>



マイアース多摩川パッケージ



川崎市主催イベントで体験会



川崎市主催イベントでビデオ撮影

団体名	いろえんぴつプロジェクト
事業名	いろえんぴつ劇場「学校の体育館がみんなの劇場になる日」

<p><b>目的・背景</b></p> <p>現代社会においては、子どもや若者の感性や共感力想像力を育む芸術体験や情操教育にも、その境遇による格差が生じている。誰もが参加できる芸術体験の場を地域の中につくことで、「心の成長」を育み「生きていく力」に寄与することが、このプロジェクトの活動目的である。</p> <p>本事業では、いろえんぴつプロジェクトが2016年から取り組み毎年実施している、いろえんぴつ劇場「学校の体育館がみんなの劇場になる日」の開催を今後も継続し、他地域に開催箇所を広げて行くための広報活動を行い、プロジェクトの運営基盤を固めることを目的とする。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無料で体験でき、障がいや年齢に関わりなく誰もが来られる場所で芸術体験、表現活動ができる</li> <li>・異なる能力を持つ人たちが連携することで、限られた条件の中でもクリエイティブな現場づくりが可能であることを知ってもらえる</li> <li>・「情報」を得ることよりも、「体験」をすることこそが、内面に変化をもたらすことを実感してもらうことができる。</li> <li>・障がいの有無に関わらず、ひとつの時間空間を共有しながらつくりあげることの豊かさを知ってもらえる</li> <li>・次世代のコミュニティコーディネーターを育成する一助になれる。</li> <li>・多様なクリエイターや専門家の活動の一助になる</li> </ul>
<p><b>実施結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の体育館での公演は中止になったが、代替えプランで、多くの人と新たにつながる事ができた</li> <li>・動画撮影などに、主体的に参加し楽しむサポーターが増えた</li> <li>・これまで連携して来た表現者やアーティストが「クリエイティブパートナー」として、より主体的に関わってくれた</li> <li>・サポーターと表現者が共に参加し協力し合う現場となり、双方に良い影響があった</li> <li>・緊急事態宣言により多くのイベントが中止になり、収入の確保のため急遽チャレンジしたクラウドファンディングで、新たな応援・支援者を得ることができた</li> <li>・広報手段を増やし、SNS発信にも力を入れたことで、当プロジェクトを知る人が増えた</li> </ul>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未だ、コロナ対応の如何によって、イベントの実施などが懸念される状況なので、どのような状況になっても、本来の目的に沿った企画を実行できるよう、柔軟な企画力、調整力を持つことが必要</li> <li>・広報手段を増やしたため、それが負担とならないようにチームの連携をより進めて行きたい</li> <li>・主体的に参加してくれるサポーターが増え、新たな支援者も増えたことで、団体としてのビジョンを多くの方と共有できるように、見える化して行きたい</li> <li>・クリエイティブパートナーとの連携を、企画力に活かした商品政策などで、団体の自主財源をつくる基盤を固めて行きたい</li> </ul>

		
<p>俳優、ダンサーと、サポーターも参加して制作したダンス動画</p>	<p>「グレモキャラバン」で俳優を相手に演技体験をするサポーター</p>	<p>本事業の広報紙として制作した、ニュースレター（表面）</p>

団体名	NPO 法人 JAEA
事業名	学校プール・市民プールなど水難事故防止のための実践的安全対策と水泳救命法の講習会事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>学校での水泳指導や監視業務など、プールサイド現場に携わる従事者などは、管理責任の及ぶ範囲の“注意義務に基づいた内容”の対策が必要であることを認識していないのが現状です。一般的な水上安全法対策では、万一の事故発生時には</p> <p>尊い命を救うことは、殆んど不可能に近いのが状況です。安全を保つための「目配り」「気配り」とは、何なのか？命を繋ぐために必要な“死戦期呼吸”の判断、“溺水時対応の人工呼吸法”など専門性の高い・確実な対策法を普及させる必要があります。</p> <p>管理責任に基づいた“一般的な内容”とは異なることを理解し、プールサイド現場で実践していただくことにあります。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>安全が約束されているはずの学校プール・市民プール・保育所プール・スイミングクラブでの水難事故が毎年のように繰り返されています。尊い命を預かる教職員や監視員・水泳コーチなどが、安易な対策法でしか臨んでいないことが要因と云われています。</p> <p>税金の一部である「しみん公益活動助成金」を活用させていただき、より、専門性の高い、しかも実践的な内容の知識と技能を身に付けていただき、市民の利益(命の安全・安心が保たれること)の向上を目指すことにあります。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>コロナ禍の中での事業で、開催にあたっては三密を避けるための広いスペースの確保、小人数を目指した分散開催での実施。</p> <p>さらには、訓練人形のアルコール消毒と感染予防のための手袋の準備など、想定外の出費がありましたが、18の学校と2カ所の水泳施設で実施できました。</p> <p>学校教職員＝760名 プール施設従事者＝69名</p> <p>当初の目標の630名を超える829名に伝達することができました。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、開催時期など、学校との日程の調整に苦慮しました。結果、日程確保・受け入れ人数や予算の関係で、実施できなかった学校や施設が多くありました。</p> <p>出来ることであれば、学校側が助成金に頼らずに、教育委員会(行政)に働きかけ、予算を計上して、独自の講習会開催を目指すべきだと思います。</p> <p>毎年、教育委員会に進言していますが、「予算が無い！」の一点張りで、聞きうけてくれません。</p> <p>結果、市民公益活動助成金を活用しての、市民(児童・生徒など)の命の安全を守る以外にありません。</p>



三密を避けて広い体育館で実施



講師も感染防止対策で臨む



感染防止の手袋を付けて熱心に受講

団体名	社会人落語やかん寄席実行委員会
事業名	社会人落語による地域活性化事業

目的・背景	事業の効果
<p>本事業は、社会人落語家によるアマチュア寄席の開催を通じて、笑いで活気溢れるコミュニティを形成し、地域の活性化に貢献することを目的としています。</p> <p>引きこもりがちになる高齢者が社会的な課題となる中、落語会の開催により高齢者が外出して社会交流のきっかけとなるよう努めます。高齢者にとっては、外出することで生活に張り生まれ、笑いによって気分も晴れるなどの効果も期待できます。地域の高齢化を食い止めることはできませんが、やかん寄席がお年寄りにとつての楽しみであり続けることで活力維持のサポートになればと考えます。</p> <p>また、落語の魅力には30～40代の子育て世代の方々も含めて親子で楽しめる側面もあることから、全世代楽しめる企画・提案を寄席のコンテンツに加えていきます。</p>	<p>① 敷居が高いイメージの落語を若い世代にも訴求できる。</p> <p>② 高齢者が30～40代の演者の口演を見て、視野を広げられる。</p> <p>③ 高齢者と若者の地域の繋がりを改めて見直し、世代を越えた連帯感の再生を図ることができる。</p> <p>④ 無料で気軽な娯楽の創出を通じて、誰もが参加しやすく楽しめる場を地域に提供し、活気あるまちづくりに貢献できる。</p> <p>⑤ 誰もが楽しめる古き良き“寄席”の持つ魅力を十分に生かすことで、笑いが導く会場の一体感が世代を超えた交流の実現に貢献できる。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 2019年度：定期公演3回+出張公演10回→2020年度：定期公演1回+出張公演8回に減少。うちオンライン落語会4回（無観客2回）。</p> <p>② 来場者割合は8割ほどが高齢者。オンライン配信の反響は若い層からが多かった。</p> <p>③ 各会場で定員を約半数に制限。また事前予約制とし、来場者の人数管理を図った。</p> <p>④ 開催にあたっては座席の距離確保、消毒対応、来場者連絡先管理を行い、会場の規定に即した対応を行った。</p> <p>⑤ 開催告知をハガキ送付によるリピーターに限定したり、インターネットでの告知限定したり、全方面に広く告知せず、集客数のコントロールを図った。</p> <p>⑥ こども文化センターでの落語会開催強化を図ったが、コロナの影響で2回にとどまった。</p>	<p>やかん寄席本公演では、200名以上の集客を見込んだがコロナ感染予防対策のため困難となった。ただ、オンライン落語会配信の取り組みを新しく始めたことで、高齢者も含めて若者層に訴求することはできた。また、配信運営の面では伴走助成を活用して、ノウハウの蓄積も図れた。</p> <p>課題となる年齢層の拡大にはこども文化センターでの落語会開催が有効と感じており、次年度は積極的に開催を働きかけたい。</p> <p>QRコードの利用、Twitterやfacebookでの告知、Youtubeでの動画配信などネットを駆使した運営は引き続き進め、若い人が反応できる場の構築はできつつある。一方で、高齢者に対するネットを通じた情報共有が依然として課題は残るため、地道な啓蒙を図りたい。</p>



第11回やかん寄席 (2020/8/16)



おてら寄席 (2021/1/24)



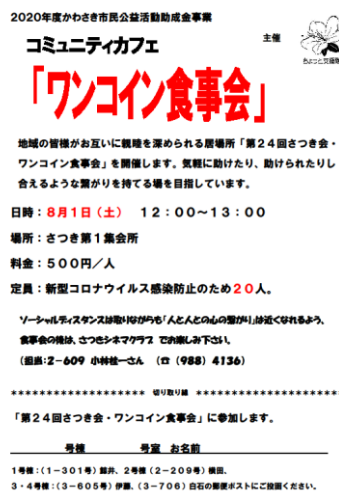
ぷらり寄席 (2020/11/22)

団体名	白山一丁目ちよっと支援隊
事業名	超高齢団地の“支え合い”事業

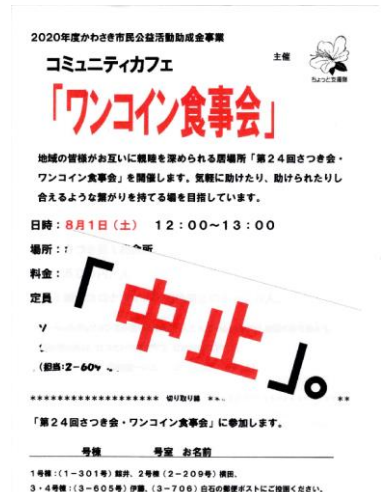
<p><b>目的・背景</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化率が50%を越し、川崎市で最も高齢化が進んでいるとされる団地でコミュニティ活動を進め、介護保険等の公的サービスと併用するボランティア型生活支援活動を活発化させる。</li> <li>・さらなる高齢化に備え、住民相互の支えあいにより、最後まで地域で過ごせることをめざす。 そのために、住民の健康づくりに取り組む</li> </ul>	<p><b>事業の効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援内容の多様化にも臨機応変に対応できており、その対応状況をボランティア通信(全戸配布)で住民にPRし、支援してほしいことがあれば気軽に利用してほしい!と呼掛けている。住民の間に、何か困った時に支援してもらえるという安心感が生じてきている。</li> </ul>
<p><b>実施結果</b></p> <p>コロナ禍で実施出来たのは、「ボランティア活動」と「ボランティア通信」発刊。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>ボランティア活動</b> 今年度('20年4月~'21年3月):39件(月極めゴミ出し;39件)。 昨年度('19年4月~'20年3月);42件(月極めゴミ出し;39件、通常ゴミ出し;2件、蛍光灯交換;1件)。</li> <li>・<b>「ボランティア通信」の発刊</b> 第11号を10月に発行。全戸に配布。</li> </ul>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・超高齢社会を迎え、今あるボランティア通信を街区新聞として全戸(391部)に継続発刊し、超高齢化に備える大切さを訴え、ボランティアの拡充を図ろうと思っています。併せて住民が気軽に会うことができる展示会等のふれ合い活動やサークル活動をもっと活発化し高齢者の引きこもり防止を図り、フレイル予防を進めて行こうと計画しています。そして高齢住民の日常生活上の異変を早めに把握する事により、不測事態を防ぎ、かつ必要な支援を迅速に提供できるようにするために、懸案の「見守り活動の仕組み」を管理組合と連携して検討したいと思っています。</li> </ul>



ボランティア通信第11号



第24回さつき会



第24回さつき会中止

団体名	菜の花ダイニング
事業名	菜の花ダイニング

<p><b>目的・背景</b></p> <p>ライフスタイルの多様化に伴い、食事の仕方も千差万別であるが、こどもが一人で食事を摂る「孤食」や「こしょく」が社会問題となっている。当団体では、「こしょく」を少しでも減らすことを第一目的とする。食事はみんなと食べることで会話が生まれ、それによって育まれる情緒や、食事の様式・作法を覚える場でもあるという、成長過程の重要な基盤であることを認識してもらおう。『温かい手作りの食事は美味しい』『会話をしながらの食事は楽しい』と感じてもらえる、こどもの健全育成が主たる目的である。</p> <p>又、地域の主に単身高齢者世帯や、孤立しがちな子育て世帯へ参加を呼び掛け、地域の多世代の人々との交流や情報交換の場を設ける事も副目的とし、地域包括ケアの一端を担うことも目的とする。*「こしょく」には、「孤食・個食・子食・粉食・固食・濃食」などがあげられる。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>①毎回配布している、レシピと食のミニ知識は「家でも作った」「このお野菜には、こんな効果や種類があるのね」等と大好評であり、参加者の小学生の男の子は毎回同じレシピを自宅で作っている将来の夢はシェフになる事と、語ってくれた。</p> <p>②こどもの元気な声を、租税教室の動画に取り入れたいと協力依頼があり、子ども達にお願いして声優デビューしてもらった。とても楽しい時間を過ごしたようだ。このビデオは中原区・高津区・宮前区の小学生を対象に使用される</p> <p>③継続していることで、注目が集まり今年は新聞にも掲載されたタウンニュース2回 東京新聞3回 神奈川新聞1回。</p>																				
<p><b>実施結果</b></p> <p>コロナ禍の影響があり、申請時の計画を大幅な変更となった。完全予約制としたため、子どもだけの参加と、コロナ禍の影響で高齢者の参加がなくなったことは、大変遺憾である。</p> <table border="1" data-bbox="145 1193 663 1536"> <tr> <td rowspan="2">参加者</td> <td>こども</td> <td>279名</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>おとな</td> <td>149名</td> <td>428名</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">内訳</td> <td>親子</td> <td>422名</td> <td>98.6%</td> </tr> <tr> <td>こどもだけ</td> <td>0名</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>高齢者</td> <td>0名</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>おとな</td> <td>8名</td> <td>1.9%</td> </tr> </table>	参加者	こども	279名	合計	おとな	149名	428名	内訳	親子	422名	98.6%	こどもだけ	0名	0.0%	高齢者	0名	0.0%	おとな	8名	1.9%	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>コロナ禍がどの時期で収束するのかの予測は立っておらず、また会場である市民館の使用も場合によっては使用ができなくなる可能性が非常に高い。今までのような会食形式でのこども食堂の開催ができなくなることも想定して、新しい開催方法や場所などを検討し柔軟な対応ができるように準備が必要と考える。</p> <p>コロナ対策で、アルコール消毒材や消耗品の使用料が増加したのは、安全に開催するための必要経費とはいえ、運営費を圧迫している。</p>
参加者		こども	279名	合計																	
	おとな	149名	428名																		
内訳	親子	422名	98.6%																		
	こどもだけ	0名	0.0%																		
	高齢者	0名	0.0%																		
	おとな	8名	1.9%																		



コロナ禍対策でお弁当容器で提供



飛沫防止も考慮してランチョンマット使用



企業からの寄贈品

団体名	NPO 法人シェアドッグスクール
事業名	かわさきボランティアドッグ促進事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>犬は人と人をつなぐ存在にもなります。地域のこどもたちに”ふれあい会”があることを広め、犬を飼っている人には、活動の参加の呼びかけを目的にした3年目の事業です。</p> <p>いぬは誕生から亡くなるまでが、人間より短いものです。当事業では、団体が開催する”ふれあい会”を通じてこどもたちに命の大切さと犬理解と、地域のつながりの橋渡しの存在になることを目指してきました。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>3年目の前半に計画変更を申請し、コロナ感染症対策を講じながら活動が継続できたことが、大きな効果でした。コロナでこどもたちがストレスを抱えている！ことは、多くの犬を飼っている方々にも共感いただきました。特にイベントで、直接話しをする場を開催し続けられたことがよかったと考えています。この3年間、活動センターの支援をいただけたことで、よく知らなかった地元地域のことも関心に向け知らなかった市民活動でしたが、市内で活動をしている団体の方々との出会いご縁をいただき、イベント出展させていただきました。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>団体にとって、助成金事業は初めてのことで、目標にした数値もだせず、集客の難しさと課題に直面することは度々起きましたが、助言をいただきながら、3年間を通じて、団体がまさにステップアップする機会をいただいた事業となりました。組織基盤助成も使わせていただき、内部的なルールを整備ができました。一緒に活動に参加したいといってくれる仲間が増えたことは、本事業をやらなかったらできなかったことだと思います。置きチラシのお願いに行った時に、冠がついたチラシは、断られない率が高く、広報活動の後押しいただきました。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>今後、多摩川河川敷で開催した、運動会イベントは、中原区協働事業で開催し、こどもたちと一緒に参加する「わんここどもの運動会」を企画しています。</p> <p>地域のワークショップ講師との出会いも多々あり、ガレージマルシェやイベント出展をしていきたいと思えます。</p> <p>「こどもわんこクラブ」のような課外クラブ活動コミュニティを目指していきます</p>



広々とした澁谷農園母屋をお借りして  
パラードづくりのワークショップを行いました



お散歩中のわんちゃんたちにご案内しての  
撮影会！



雨天中止となった運動会は、  
4月に開催予定！



団体名	公益財団法人 現代人形劇センター
事業名	アジアの人形劇と芸能を通じた異文化理解・学校ワークショップ

目的・背景	事業の効果
<p><b>【背景】</b>川崎市は歴史的に在日朝鮮人、韓国人が多数居住し、近年は労働者も増加するなど、外国人市民の多い土地柄である。いっぽう現在、世界的に移民排斥、ヘイトスピーチなど、外国人に対する不寛容が広がり、日本にも暗い影を落としている。</p> <p><b>【目的】</b>本事業は、アジアの人形劇と芸能を通じて、未来を担う子どもたちにアジアの隣人への理解を深めてもらうことを目的とする。特に、アジアの伝統人形劇や芸能は、文化の基層にあって、素朴な信仰心、文学、美術工芸、音楽等、民族文化の結晶。いまま生活に息づく。子どもたちがそれを体感し、精神にも触れることで、異文化への理解と敬意を抱き、アジアの人たちを身近に感じられることをめざす。</p>	<p>○事業目的で述べたように、地域の未来を担う子どもたちを中心に、異文化への理解と敬意が育つ。</p> <p>○講師は、外国で生活し、文化を学び、その国の人々に協力し、貢献し、架け橋となっている日本人であるところから、その生き方に触れることそのものがひとつの示唆となる。</p> <p>○身近な影響として想定されるのは、子ども達が帰宅後に、ラオスについて、当日知り体験したことを、家庭で話題して、家族とも共有し、身近に国際理解を広げていくこと。(初年度・カンボジアの影絵人形講座の実績として、帰宅後にカンボジアの影絵人形を模した人形を紙で作り、操作して家族にみせた、というケースが複数あった。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p><b>【内容】</b>テーマはラオスの現代人形劇とその母体である自然やくらし。学校ワークショップを7日(5校、12回、参加者計593名)実施。</p> <p>●生活文化紹介(ラオス語でのあいさつや、気候、歴史、食事など、くらしぶりをスライドで紹介。)●ラオスの手法を生かした人形劇の実演●自然素材に命を吹き込む表現(椰子の実、樹木など)自分たちの身近な持ち物、服、布などに命を吹き込む表現を自由にやってみる</p> <p><b>【成果】</b>(当日の様子とアンケートより)</p> <p>●ラオスの生活に、「日本とはちがったみりょくがあって興味がわきました。」「もし機会があったらいつてみたい」など、異文化への興味と敬意を喚起できた。●人形劇の実演に対しては「面白い!」と、ワークショップ後に講師に話しかけたり、アンケートに言葉や絵で表現するなど。非常に好意的であった。●人形劇体験には、身近なもので人形劇ができることへの感動や、「自宅でもやってみよう」との声が多数あった。</p>	<p><b>【課題】</b>●コロナ禍の混乱の中だったため、提携校の開拓に対して積極的な動きがあまりできなかった。</p> <p><b>【今後の展望】</b>●今年度は、コロナ禍の混乱の中で、当初は実施が危ぶまれたが、「こんな時期だからこそ文化活動を実施したい」という声も多く、最終的に12回の実施が可能となった。</p> <p>提携校開拓や、子ども達への芸能を通じたアジア理解講座に関心のある市民のネットワークを構築、現地人や外国人市民による講座実施など、引き続き可能性を探りたい。</p>



ラオスのくらしについての説明



講師による実演



ワークショップのようす

団体名	一般社団法人 ピッカ
事業名	児童養護施設と周辺地域に於ける文化芸術ダンス及びアート&ミュージックの定期学習と発表会事業

<p><b>目的・背景</b></p> <p>■児童養護施設の入所者が、「ダンス」「アート」「音楽」等の文化芸術を学習することは、経済的に非常に困難だ。入所者、及びショートステイ等の利用者、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童、そして近隣の学校や各種施設の子どもたちに、世界を舞台に活躍している芸術家が直接、中長期間で定期的な指導を行い、最終段階としては舞台上での発表を目指す。■単発で一過性のイベント的な機会では無く、持続性を持って指導し、子どもたちに「やり遂げる喜び」を得て貰うことを目指す。興味本位で始めても簡単には出来ないことも多く悔しさも感じるだろう。より真剣に取り組むことへ向き合えないといけない。それらを克服し、1つの目標を達成することで自信を持てるようになる。</p>	<p><b>事業の効果</b></p> <p>■文化芸術を学習すること、大きなステージ/舞台に立って発表&amp;お披露目することを、経済的な理由で諦めている子どもたち、そして心に傷を持った子どもたちに、「やり遂げる喜び」を与え、将来の夢や希望を持たせる。■また、世界を舞台に活躍する芸術家のパフォーマンスや指導を地域の福祉システムと連動/協働することで、その触れ合いはより市民や各団体に身近に親密になり、子どもの将来が生まれ育った環境で左右されない子どもの貧困対策としても、共生社会を目指すインクルージョンとしても、本事業は1つのモデルケースの推進へと繋がる。■コロナ禍での教室開催対策として状況に応じたオンライン及びリモートでの実施準備と対策も進める。</p>
<p><b>実施結果</b></p> <p>■ダンスコースは、「児童/生徒コース」と、「幼児コース」の2コースに分けての実施となった。■DA ダンス児童/生徒コース:9名、DBコース:ダンス幼児コース:8名、ギターコース:最初4名、マジックコース:6名、で決定/実施。■発表会は、出演者と施設関係者の観覧のみとした為、総観覧者数は、45名程度。ダンスの、DAコース:ダンス児童/生徒コースは「LA・LA・LA LOVE SONG」を、ダンス幼児コースは、KREVA「敵がない国」のパフォーマンスを履修し、ステージ上でフォーメーションを組んでフルサイズで披露することが出来た。ギターコースは、「キラキラ星」と、高橋洋子「残酷な天使のテーゼ」フルで4分のパフォーマンスを履修し、ステージ上で披露することが出来た。マジックコースは、複数種のマジックを履修し、ステージ上で披露することが出来た。</p>	<p><b>事業の課題と今後の展望</b></p> <p>■来年度採択された場合は、①バレエ、②ミュージカル、③ダンス、④ギター、⑤剣武、⑥マジック、6コースの中より受講者を募集。</p> <p>■本助成金が終了後も活動を継続するための企業へのアプローチを継続する。</p> <p>私どもの活動(本事業のみならず)を、複数の企業/法人(県内のIT関連企業、工業系会社、都内の大手芸能事務所等)にご紹介、ご案内させて頂いた。</p> <p>です。</p> <p>また企業経営の根幹に、CSRを明確に掲げ、そして門戸を開き、私たちの活動に興味を示す法人をこれからも探し続ける。</p>



みんなステージに大集合！



ギターコース On Stage！



ダンス幼児コースのパフォーマンス！